

子宮頸がん啓発キャンペーン 女性のキレイと健康を考える 「未来への約束」

Promise to
your future

2013 May
vol.2

テーマ／病を知る－予防のために－

いつまでも輝いて生きたいから…

バランスよく食べたり、ムリなく運動を楽しんだり、

そんな毎日の積み重ねとともに、

人生から病気のリスクを減らすことを心がけていますか。

女性には世代ごとに注意したい

さまざまな疾患があります。

とりわけ、これから妊娠・出産を考える女性たちに、

気をつけてほしいのが「子宮頸がん」です。

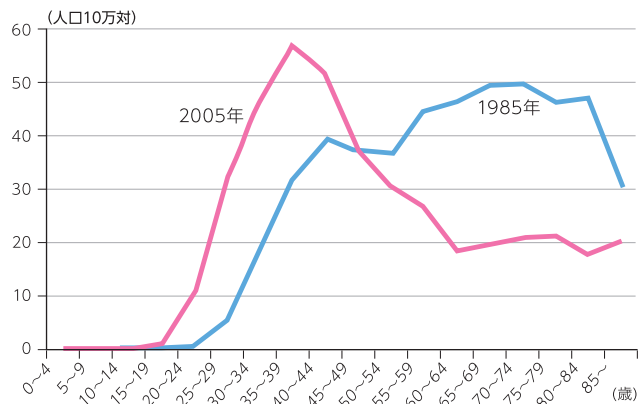


若い女性に急増しています

子宮には赤ちゃんが育つ「体部」と、その出口である「頸部」があり、子宮にできるがんには「体がん」と「頸がん」の2種類があります。体がんは40代後半以降に発症が増えるのに対して、頸がんは10代から発症し、今20～30代に急増しています。全国で年間約8900人が新たに子宮頸がんを発症、約2700人が亡くなっており、深刻な社会問題になっています。

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によって発生することが明らかになっています。HPVは性交渉で感染し、性体験のある女性なら誰もが感染の可能性がある、ありふれたウイルスです。感染しても免疫の働きで、ほとんどが自然に排除されますが、まれに感染が持続した場合、数年かかってがん細胞に進行するとされています。

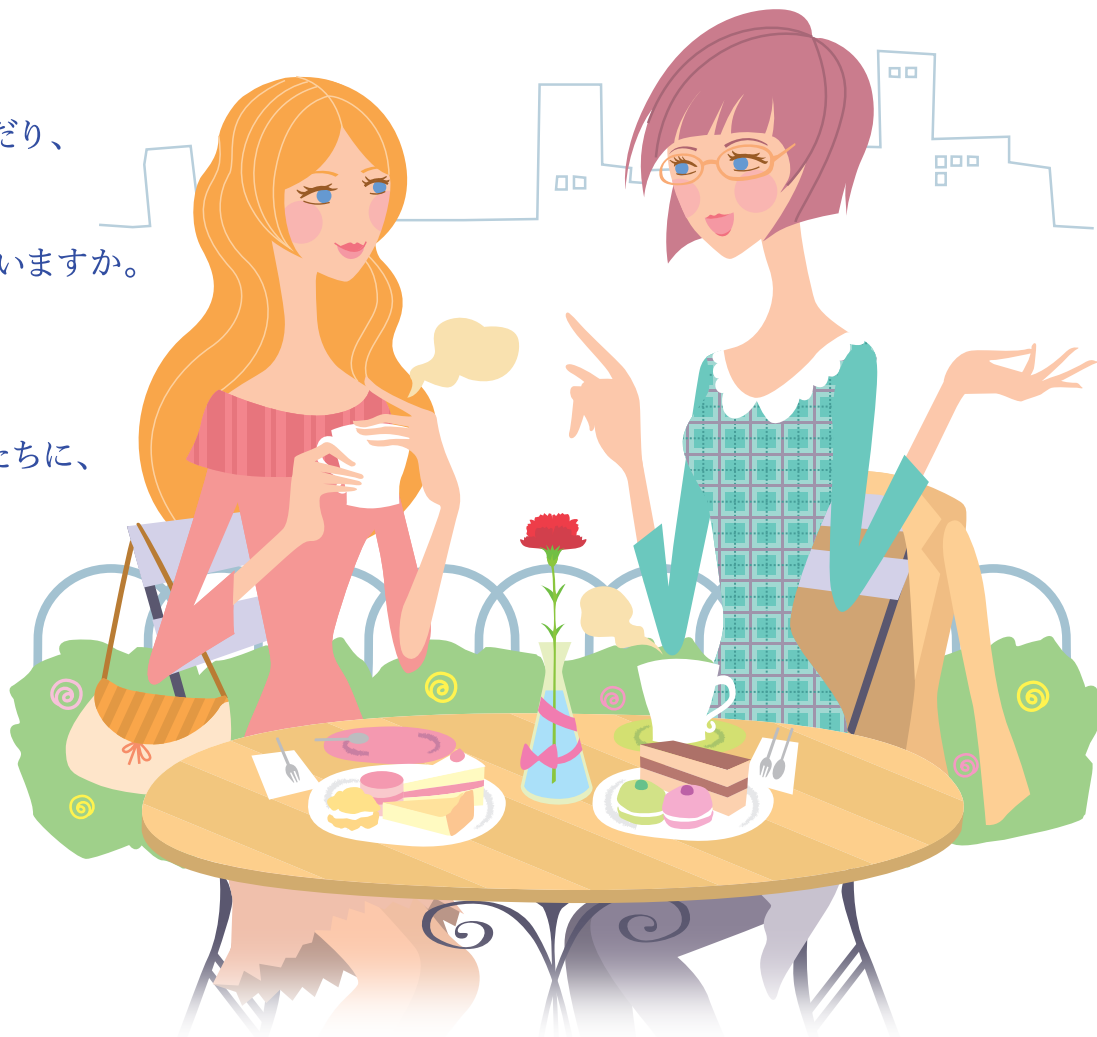
子宮頸がん(上皮内がんを含む)発生率の推移



※出典:独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス

初期の自覚症状はありません

HPVには100種類以上の型があり、性器や粘膜に感染する型が約40種類。そのうち15種類が子宮頸がんの発症に深く関わる「ハイリスクHPV」として特定されています。なかでも進行子宮頸がんでは、16型・18型の感染が多く認められます。10代など若い人は免疫が活発で、ウイルスに感染しても速やかに排除されますが、いったんがんに変化すると進行が早い場合もあり注意が必要です。世代を問わず初期にはほとんど症状がなく、不正出血などに気づいたときには、すでにかんが進行しているケースが少なくありません。



ずっとキレイでいたいから、
もっとカラダを見つめたい。

がんになる前に発見できます

ワクチンですべてのHPV感染を防ぐことはできません。子宮頸がんを防ぐには、正しい知識を持ち、検診を定期的に受けることが不可欠です。HPVの感染が続いた細胞が、がんに進行するには数年かかります。定期検診を受けていれば、がんになる前の段階で細胞の異常(異形成)を発見し、状況に応じて治療できます。

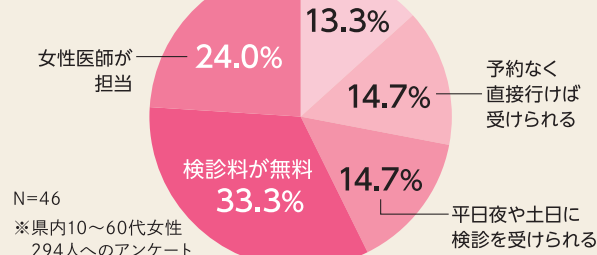
検診では、やわらかなブラシのようなもので子宮頸部の表面から細胞をこすり取り顕微鏡で調べます。これを「細胞診検査(細胞診)」といいます。細胞の採取は数分で終わり、痛みはほとんどありません。セクシャルデビューしたら、10代でも1年に1度は細胞診を受けましょう。また妊娠を望まない性交渉にはコンドームを使うことも、HPV感染から身を守る一つの方法です。

検診には細胞診のほかに、ハイリスクHPV感染の有無を調べる「HPV検査」があります。細胞診で採取した細胞を用い同時に検査できますが、費用は自己負担(5千円程度)になります。ただし細胞診での判定が困難で、HPV感染の有無の確認が望ましいと医師が判断した場合、保険診療としてHPV検査を受けることができます。詳細は医療機関に確認してください。

富山の女性たちに聞きました

Q どうしたら検診を受けようと思いますか?

A



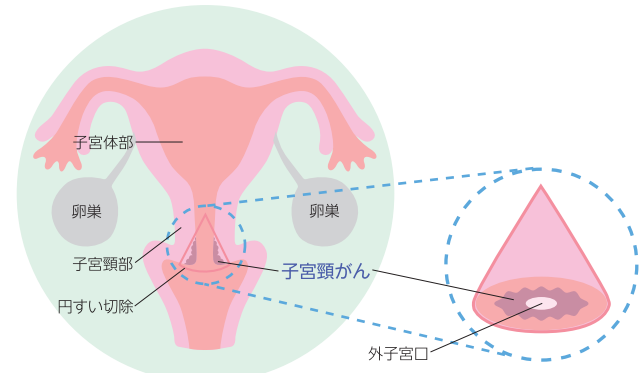
子宮頸がん検診を受けたことのない人に尋ねたところ(複数回答)、半数以上は「検診が無料」なら受けようと思ひ、また「女性医師が担当」「予約なく受けられる」「平日夜や土日に受けられる」などを望む声がありました。検診の浸透には、女性の意識啓発とともに、社会全体で受診しやすい環境を整えることが求められています。



子宮を守るために定期検診を

HPV感染が持続した細胞が、がんになる前の状態(異形成)で見つかった場合、またがんが子宮頸部の粘膜表面にとどまっている(上皮内がん)場合、子宮頸部を高周波メスやレーザーを用いて、円すい形に取り除く手術(円すい切除)で治療できます。この方法なら子宮は温存でき、術後の妊娠・出産が可能で、後遺症の心配もほとんどありません。

がんが頸部に深く浸潤したり、頸部を越えて周囲へ広がると、子宮だけでなくリンパ節などを含む広範な摘出手術が必要です。子宮を失い、妊娠・出産ができないだけでなく、排尿障害やリンパ浮腫、膀胱炎や直腸炎など、つらい後遺症と生涯向き合うことになります。かけがえのない子宮と命を守るには、円すい切除できる段階までにかんを見つけることが必須です。早期発見のために、定期検診を習慣にしましょう。



富山県内各市町村のがん検診・子宮頸がん予防ワクチン 問い合わせ窓口

市町村名	がん検診窓口	予防ワクチン窓口
富山市	保健所健康課 企画係 076-428-1153	保健所保健予防課 結核・感染症係 076-428-1152
高岡市	健康増進課 成人保健担当 0766-20-1345	健康増進課 母子保健・予防接種担当 0766-20-1349
魚津市	健康センター 健康づくり係 0765-24-3999	健康センター 母子保健係 0765-24-3999
氷見市	健康課成人保健担当 0766-74-8062	健康課 母子保健担当 0766-74-8062
滑川市	市民健康センター がん検診担当 076-475-8011	市民健康センター 076-475-8011
黒部市	健康増進課健康づくり係 0765-54-2411	健康増進課 母子保健係 0765-54-2411
砺波市	健康センター 0763-32-7062	健康センター 0763-32-7062
小矢部市	健康福祉課 0766-67-8606	健康福祉課 0766-67-8606
南砺市	健康課保健係 0763-23-2027	福光保健センター 0763-52-1767
射水市	健康推進課 0766-82-1954	健康推進課 0766-82-1954
舟橋村	生活環境課福祉係 076-464-1121	生活環境課福祉係 076-464-1121
上市町	福祉課保健班 076-473-9355	福祉課保健班 076-473-9355
立山町	健康福祉課健康係(保健センター) 076-463-0618	健康福祉課健康係(保健センター) 076-463-0618
入善町	健康福祉課保健センター 0765-72-0343	健康福祉課保健センター 0765-72-0343
朝日町	健康課保健センター 0765-83-3309	健康課保健センター 0765-83-3309

あなたの体験や、ご意見、ご感想をお寄せください!

はがきまたはFAX、WEBよりお寄せください。氏名、ご住所、年齢、電話番号を明記の上、「子宮頸がん」に関するご自身やご家族、ご友人の体験談や経験、紙面で役立つ点、紙面へのご要望などをお寄せください。

●はがきの宛先 〒930-0094 富山市安住町2-14 北日本新聞社 「未来への約束キャンペーン」係
●FAX番号 FAX (076)442-3225
●WEB オフィシャルサイト内のアンケートフォームをクリック
お問い合わせ 北日本新聞社営業局営業部 ☎(076)445-3362(平日午前9時から午後5時)

キャンペーンの内容はオフィシャルサイトでもご覧いただけます。

北日本新聞 未来への約束 <http://woman.kp-kikaku.jp> 北日本新聞ウェブ新聞 webunからもアクセスできます。

主催/北日本新聞社 後援/富山県、富山県教育委員会、富山県医師会、富山県産婦人科医会、富山県小児科医会、富山県商工会議所連合会、NPO法人女性特有のガンのサポートグループ オレンジティ

協賛社

AXA アクサ生命
redefining / standards

A/ アートネイチャー

KANSUI-KOUEN LADIES CLINIC
産科・婦人科
かんすいこうえん レディースクリニック

gsk GlaxoSmithKline
グラクソ・スミスクライン株式会社

大王製紙株式会社

テンプスタッフフォーラム株式会社

富山第一ホテル
おいしさと感動をこれからも。

北陸銀行

YA-MAN